

集団生活を通して、学年のレベルを高めることができました。 2年 下田移動教室 6月5日(水)～7日(金)

前日までの不安定な天候とはうって変わり、晴天のなか下田移動教室がはじまりました。

6月5日(水)、初日最初のプログラムは、爪木崎での集合写真撮影と昼食でした。いつもの教室での給食とはちょっと違い、広々とした屋外はとても気持ちよく、クラスの仲間とのんびりと過ごすことができました。また、海を見下ろしながら食べるソフトクリームは格別でした。さて次は、海岸沿いの遊歩道を使っての爪木崎から恵比須島までのハイキングでしたが、スタート地点には「通行止め」の表示。下田市観光交流課に確認したところ、一部崩れそうなところがみつかったためとのこと。そこで急遽、バスでの移動に変更、恵比須島では散策を楽しむことができました。



夜は、伊豆半島ジオガイド協会の方に来ていただき、ジオ学習を実施しました。はじめに、伊豆半島各地の砂のサンプルを使って「伊豆半島 砂の標本」を各自で製作、それをもとになぜ地域によって砂の特徴が違うかについて、考察したことを発表し合いました。その後、解説ビデオを視聴しながら、伊豆半島の成り立ちと砂の特徴との関係について学習しました。伊豆半島各地の砂を実際に見比べてみると、その特徴の違いは歴然で、学習内容の理解を深めることができました。

6月6日(木)移動教室2日目、大きく体調を崩す生徒もなく、朝礼でも元気にラジオ体操をして朝食を食べました。午前、チェックポイントを巡りながら、“謎”を解いていくゲーム形式で、下田市内班行動を行いました。どの班も協力しながら課題に取り組み、全班、制限時間内にゴールすることができました。獲得ポイントを競うこのゲーム、結果発表は後日の楽しみとなりました。



午後は、外浦海岸でのシーカヤック、サンドアート、磯学習を行いました。

シーカヤックでは、インストラクターの方から操船上の安全講習を受けた後、学級ごとに順次、操船体験をしました。インストラクターの方たちのサポートを受けながら2～3名一組で操船、当日は風が弱かったおかげもあり、湾内の先の方まで行くことができ、そこから見る景色は爽快でした。



また、シーカヤック体験を待つ時間を利用して、各班ごとサンドアートに取り組みました。園芸用シャベル2本とバケツ1個という、限られた用具をうまく使いながら、班それぞれに当日与えられたお題で製作するというもので、どの班も協力しながら時間を忘れて取り組んでいました。なかには、待ち時間でつくったとは思えない、なかなか見ごたえある出来栄のものもありました。後日、写真選考により優秀作品を選びました。

せっかく海を間近で見られる下田に来たのだからと、理科担当の渡邊先生による特別授業「磯学習」も実施しました。実は、海生無脊椎動物は渡邊先生の専門分野、手慣れた手つきでカニやらヤドカリやらをその場で採取、講義とともにそれを使っての観察活動を行いました。これぞまさに、下田に“移動”してきて行う青空“教室”でした。宿舎に戻ってからも、興味ある生徒たちは、お風呂の待ち時間を使って、採取した生物の観察やスケッチを楽しんでいました。



(この後、採取した生物は海に戻しました。)

約4時間の野外活動でしたが、日差しがそれほど強くなく、熱中症等体調不良になる人もいなかったこともあり、ネイチャースポーツの屋外体験、協同作業による班活動、自然に触れながらの教科学習など、日ごろ東京ではできない充実した学習活動を行うことができました。

6月7日(金)、移動教室最終日は、伊豆シャボテン動物公園を見学しました。ここの特徴は動物たちとの距離が近く、カピバラやミーアキャット、プレーリードッグなどをすぐ手の届くところで見ることができることです。孔雀も放し飼いのため、目の前で羽根を広げる姿にも遭遇しました。1時間ほどの見学時間でしたが、十分楽しむことができました。



今回の移動教室では、学校外での集団行動・集団生活を通じて、多くのことを学びました。失敗したり、うまくできなかつたりしたこともありましたが、そのなかで、学年としてのできるが増えたり、上手になっていきました。こうした成長は、実際にやってみたことで、経験したことでしか、得られないものではないでしょうか。そうした、2学年のみなさんの成長する姿を見ることができました。この力を、今度は学校生活で活かすことで、自分たちの実力となることが期待できる、そうした移動教室になりました。